

Title	日本における大学発ベンチャーの成功のために： ベンチャーアンケート調査とベンチャー支援者インタビューを比較して
Sub Title	
Author	志賀, 卓弥(Shiga, Takuya) 中村, 洋(Nakamura, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2016
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2016年度経営学 第3163号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002016-3163">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002016-3163</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（ 2016 年度）

論文題名

日本における大学発ベンチャーの成功のために  
—ベンチャーアンケート調査とベンチャー支援者インタビューを比較して—

主 査	中村 洋
副 査	岡田 正大
副 査	村上 裕太郎
副 査	田中 滋

氏 名	志賀 卓弥
-----	-------

## 論文要旨

所属ゼミ	中村洋 研究室	氏名	志賀 卓弥
<p>(論文題名)</p> <p>日本における大学発ベンチャーの成功のために —ベンチャーアンケート調査とベンチャー支援者インタビューを比較して—</p>			
<p>(内容の要旨)</p> <p>&lt;背景&gt;大学の各研究室には優れた技術や人材が集積している。しかし日本において大学シーズを利用した大学発ベンチャー (VB) が非常に少ない。基礎研究やシーズ技術等の優れた技術を用いた製品、サービスを創造しようと VB として起業しようとすると、多くの障壁が存在していた。大学発 VB ビジネスについて、我が国の現状、今後の VB ビジネス見通しについて興味を持った。</p> <p>&lt;目的&gt;日本でこれまで行われてきた政策、大学、VC 等による大学発 VB への各種支援が、大学発 VB の成長に与えた影響を分析し、今後、日本における大学発 VB の成長を促す支援の在り方はどうあるべきか、大学発 VB の現在の問題点、その原因、解決策を検討し、日本における大学発 VB の成長のために必要な提言を行う。</p> <p>&lt;方法&gt;平成 27 年度産業技術調査事業報告書アンケート結果と現状分析より大学発 VB の現状を把握し、課題を抽出した。大学発 VB 支援者に対し半構造化インタビューを行った。インタビュー結果は修正版グラウンデッド・セオリーアプローチ (M-GTA) により概念化を行った。経済産業省のアンケート結果とインタビュー結果を比較し、有効と思われる施策、新たに必要と思われる視点、仕組みを考察した。</p> <p>&lt;結果&gt;M-GTA に従い、概念のカテゴリ化を行った。インタビューの多くが重要と指摘した項目を重要な項目とした。経済産業省のアンケートで重要な施策の項目とこれらの項目を比較検討した。</p> <p>&lt;考察&gt;経済産業省のアンケート結果とインタビューの共通点として、ビジネスモデルが描ける人材がいる、資金調達出来る人材いる、社会へインパクトのある・差別化された製品・サービスがある、エンジェル・VC を活用した資金調達出来る、グローバル展開のために外国人等をメンバーへ入れる、が挙げられた。これら共通した項目については大学発 VB の成功に重要な項目として確認できた。経済産業省のアンケート結果では上げられていない点で、今回のインタビューで新たに得られた視点は、研究者は経営陣に入るべきではない、研究者のマインドセットとして起業に消極的である、クラスター形成が必要である、公的資金の投下方法の問題、が挙げられた。研究者は、投下資本を研究費と勘違いしている研究者が多く存在し、経営能力の欠如、資金調達能力の欠如、市場戦略の欠如があげられ、マインドセットとして、失敗を周囲が受け入れない、起業したいというモチベーションがない、兼業規定の問題、給与の確保が不安定といった要素による物と考えられた。VB の立ち上がりにはスピードが必要であり、そのやり取り、連絡には近い方が有利である。そのため、クラスターを形成することが多い。公的資金の使用の問題は、VC の運用費用としての取り分は、運用資金の数%程度と言われている。VC にとって取り分を増やすためには、手元資金を投資している方が良い。つまり、公設 VC は、手元資金を全額投資していた方が、自身の取り分は増える。そのため、公設 VC が直接投資をすると、VB の企業価値を高く見積もりがちとなり、民業圧迫となる。</p> <p>&lt;結論&gt;経済産業省の VB へのアンケート結果と、インタビューの結果から、1. 人材、知財、資金調達が重要である。2. 資金調達は株式調達が重要である。3. VB はグローバルで戦略を立てることが重要である。4. 大学発 VB において、研究者を経営陣に含めるべきではない。5. クラスター形成が必要である。6. 公的資金投資は、VC の目利き力に基づき供給する必要がある。7.アントレプレナーシップ教育が必要である。そしてこれらをサステイナブルに行うためには、大学発 VB 創出の大学側支援、国の環境整備、民間投資が循環するエコシステムが必要である。</p>			